

# HITO NEWS

HITO  
MEDICAL  
CENTER  
NEWS

2017.9

No.15

特集「未来創出HITOプロジェクト」

特集①「患者さまが自身の診療情報の  
一部を保管・閲覧できるサービス  
『カルテコ』を開始」

特集②「移動式術中32列ヘリカルCT  
AIROを日本初導入し  
ナビゲーション手術が  
可能なオペ室を新設」

耳鼻咽喉科 開設

女性を支える取り組み  
「婦人科・泌尿器科の連携術」

形成外科「腫瘍と傷の審美的再建」

TOPICS

今日を、のびやかに



—Toko

# 未来創出HITOプロジェクト

住み慣れた町で健康に暮らせる、未来を創るために。

これまでの軌跡とさらなる飛躍。

## ICTの利活用で質の高い手術の提供

患者さまに優しい、低侵襲手術で最大限の効果を遠隔手術支援を目指して

## 健康増進の促進と地域への展開

診療方法の一部を患者さまと共有(カルテコ)

## 自分の健康を自分で管理する

ICT活用を推進する場の提供(HITO|Bar)

## 健康長寿の実現 医療従事者の働き方改革

いつまでも歩くを支えるロボットスーツによるリハビリ(統合型歩行機能回復センター) 働き方革命(AmiVoice®、iPad)

未来創出HITOプロジェクト第3段

# 患者さまが自身の診療情報の一部を 保管・閲覧できるサービス「カルテコ」を開始

### カルテコとは？

当院では6月21日より、PHR(パーソナルヘルスレコード)システム「カルテコ」の運用を開始いたしました。「カルテコ」とは、患者さまの診療情報の一部を保管・閲覧できるように

するWEBサービスです。まず現段階では、検査結果、処方・注射薬の情報を保管・閲覧できます。(※医師が諸事情を鑑み共有しないと判断した情報については、閲覧できません。)

予防と健康増進に繋がるように患者さまが診療記録を自ら管理することにより、自身の健康状態や病気に関するご理解を深めていただくとともに、医師と患者さまとの信頼関係の更なる向上を目指します。



自分のパソコンやスマートフォンで診療情報の一部を見れます。

◀カルテコを利用するために必要なCADAカードの申請機器「CADA-BOXステーション」診療情報の印刷なども可能

※PHRとは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Records)の略称で、個人が生涯にわたり自分自身に関する医療・健康情報を収集・保存し活用できる仕組みを指します。

## CADAで閲覧できる診療情報

※閲覧できる診療情報は、2017年6月21日以降のものになります。



### 症状リスト

受診する理由となった主な症状を登録することができ、同様の症状が発症した場合に役立ちます。



### 診療中に使われた薬

診療中に使用された薬名が表示されます。



### 処方された薬

医師より処方された薬名や詳しい情報が表示されます。 ※ジェネリック(後発薬)に切り替えた場合など、実際に処方された薬と異なる場合があります。



### 検査結果

検査の結果が表示されます。結果値の推移を表やグラフで確認できます。 ※検査結果が反映されるまで一定の時間がかかる場合があります。

## 診療情報の見方・カルテコのご利用方法

①病院1階正面入口って左奥にあるCADA-BOXステーションでCADAを申込みます

②受付でCADAを申し込んだ旨をお伝えくださいCADAカードを発行します

お問い合わせはこちら  
CADAナビ(お問い合わせセンター)  
**0570-666-250**  
●平日 9:00~18:00 ●土曜日 9:00~17:00  
※日・祝・年末年始(12月29日~1月3日)を除く

### ③診療情報の見方

- ◆方法1◆ PC/スマホから「カルテコ」と検索
- ◆方法2◆ CADA-BOXステーションから印刷する
- ◆方法3◆ iPhoneから「めでいログ」アプリをダウンロード

# 移動式術中32列ヘリカルCT「A I R O」を 日本初導入し、ナビゲーション手術が可能なオペ室を新設



## 手術室新設の運び

当院ではカテーテルを用いた血管内治療だけでなく、腹腔鏡手術、関節鏡を使用した手術を行い、患者さまの身体に負担の少ない低侵襲治療に取り組んで参りました。小さな傷での手術は、術後の痛みを軽減し、回復を早めることができますが、その反面、術野が狭く、高度な技術が必要です。

そこで、より安全に安心して手術を受けられるよう7月に最新鋭の移動式術中32列ヘリカルCT「A I R O」を導入し、手術室を新設しました。高画質な術中CT画像は、術者に自信をもたらし、高度な技術が必要な低侵襲手術をサポートし、的確な手術に役立ちます。術者のストレス軽減にも貢献できることが期待できます。これからの高齢社会に対して、低侵襲手術や術後早期からのリハビリテーションを提供し、健康長寿の実現に貢献したいと考えます。

## 移動式術中CT「A I R O」

近年、脳神経外科や整形外科の分野では、より低侵襲で、正確な手術を実施するためにナビゲーションシステムが導入されるようになりました。

ナビゲーションで重要なのが正確な位置情報です。手術を受ける体位で撮影した画像を活用することで、術前に撮影した画像より精度が向上し、より質の高い手術を行うことができます。

術中CT「A I R O」は手術台に完全対応しており、患者さまを動かさず撮影でき、正確な位置情報を得ることができます。

また、径が107cmと大型のボアサイズで、1回の撮影範囲が径50cm×100cmと大きいので、脊椎全体を観察でき、3D・C-Arm装置よりも骨や筋肉を鮮明に可視化できます。脳神経外科手術や脊椎手術、外傷外科手術での撮影に最適です。

## 術中CTを活用したナビゲーション 支援下の脊椎手術における 統合画像システムの有用性

脊椎手術においては、骨を削る際にドリル先端の位置情報がナビゲーション画像にリアルタイムで反映され、安全で最適な骨削除を目指す取り組みも始まりました。

この取り組みでは、神経損傷、関節損傷を防ぎ、運動機能の温存に寄与することが期待できます。



## 術中に必要な情報を 大型モニターへ統合

バルコ社の非圧縮画像伝送ソリューションZ&Xが導入され、IPネットワークが構築されました。手術顕微鏡、内視鏡、ナビゲーション、エコー、神経モニタリング、PACS、無影灯センターカメラ、生体モニタの情報4K対応の手術室用31インチおよび58インチの天吊り型ディスプレイに選択表示でき、ナビゲーション画像はもちろん、統合された術中情報を近くで確認しながら、手術が可能です。今後、遠隔手術支援にも対応可能なオペ室としての機能を有しています。



※PACS：検査機器からの画像データを保管し、端末に表示するシステムです。

## 安全で的確な医療提供

◎高精細術中CTを活用したナビゲーション手術で手術精度の向上、合併症回避



# 耳鼻咽喉科 開設



耳鼻咽喉科 医長  
たかき だいき  
高木 大樹

日本耳鼻咽喉科学会  
専門医 / 補聴器相談医

## 開設の運び

9月11日に、耳鼻咽喉科を開設しました。当宇摩圏域には、耳鼻咽喉科を備えた医療機関が少ないという現状があり、手術や入院に対応できるところは、宇摩圏域や隣接する香川県の西讃地域にもありませんでした。

そのため当院に対しても、かねてより地域の皆さまや開業医の先生から開設のご要望を頂いており、この度、愛媛大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科より医師派遣のご支援をいただき、その実現に至りました。今後とも開業医の先生方と連携し、地域全体の一助となれますよう、尽力して参ります。

## 取り扱う疾患・手術



短時間・低侵襲・日帰りでできる鼓膜の手術。

中耳炎などの耳の炎症を主な原因として、鼓膜に穴が開くことがあります。穴が開くことで膿が出てきたり、耳が聞こえにくくなります。通常中耳炎が治ると穴は自然と塞がりますが、穴が大きい場合や、慢性中耳炎などで数か月以上穴が開いてしまっている場合には、手術による鼓膜の再建が必要です。当院では、「湯浅法（接着法）」と呼ばれる術式で鼓膜形成を行います。

## 鼓膜形成術（湯浅法）



この術式では、局所麻酔で手術が可能であり、時間は1時間程度で済みます。全ての症例ではありませんが、日帰り手術も可能です。そのため日常生活や仕事への影響も少なく済みます。



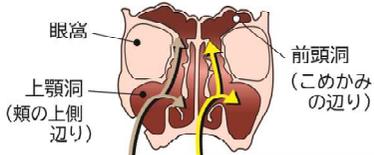
「鼻づまり」に悩まされているあなたに。

風邪を引いた時などに悩まされる「鼻水」「鼻づまり」。これは鼻の上や横にある副鼻腔という空洞部分が細菌などに感染し炎症を起こしている状態で、「副鼻腔炎」と言います。

当院では、このような症状に対し、体への負担が少ない「鼻副鼻腔内視鏡手術」を行います。内視鏡を鼻から挿入し、モニターを見ながら炎症によって腫れた粘膜を切除して、空気が鼻水の通り道を広くします。以前は菌茎を

切って行っていた蓄膿症の手術も、鼻の中からほとんどすべての操作が行えるようになったため、傷跡が最小限で済みます。また、この手術法はアレルギー性鼻炎や鼻の仕切りが曲がっている人（鼻中隔湾曲症）などにも有効です。もちろん手術だけでなく投薬治療も可能です。長い間鼻の症状に悩んでいる方は、ぜひご相談ください。

## 鼻副鼻腔内視鏡手術（副鼻腔炎）



従来法	鼻副鼻腔内視鏡
菌茎・骨を切除して行う	鼻から内視鏡を挿入して行う
<ul style="list-style-type: none"> <li>傷が大きい</li> <li>術後の痛みや腫れが強い</li> <li>腫れが残ることがある</li> <li>入院期間が長い（両側で2～3週間）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷跡が小さい</li> <li>出血が少ない</li> <li>術後の痛みが少ない</li> <li>腫れはほとんどない</li> <li>入院期間が短い（両側で約1週間）</li> </ul>



高熱・のどの痛み、扁桃炎治療で快適な生活へ。

「扁桃腺持ち」という言葉があります。が、口の奥の方が炎症（扁桃炎）を起

こし、40度近い発熱やのどの痛みに悩まされている方がいます。ひどい人では毎月高熱が出る方もおられます。そのような症状を改善するために「扁桃摘出手術」を行っております。摘出した方の多くは、扁桃腺の再発がなくなるか、または減少します。手術・入院・自宅でのケアなどで数週間の治療が必要ですが、当院には手術から入院までしっかりと対応できる設備が整っております。まずはご相談ください。

## 耳鼻咽喉科 診療日時

	月～木	金	土
午前	8:30～12:30	9:00～12:30	8:30～12:30
午後	—	★開設予定 補聴器専門外来	—

ご予約はこちら（サポートセンター） **0896-58-2226**

## 補聴器専門外来（10月6日（金）開設予定）

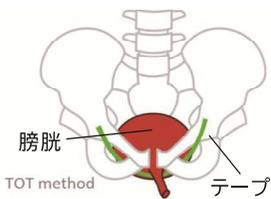
補聴器が必要な人が、自分にぴったりの補聴器を使用できるよう、試着・問題点の洗い出し・再調整を繰り返し補聴器を適合させていただきます。

※詳しくはサポートセンターにお問い合わせください。

# 女性を支える取り組み

## 女性の4割以上が悩む尿失禁

自分の意思に関わらず尿もれすること  
を尿失禁といいます。女性特有の骨盤の構造と妊娠出産などの理由で、女性の方が多くみられます。尿失禁は適切な診断と治療を行えば、その多くは治療可能な病気です。今回は、尿失禁の中でも特に腹圧性尿失禁に関して説明したいと思います。  
腹圧性尿失禁とは、腹圧がかかる状態、例えば咳やくしゃみ、運動、重いものを持つ、大笑いした時などで尿失禁することです。膀胱出口の尿道支持組織が弱っており、腹圧がかかることで膀胱内圧が高まると、尿道括約筋がこらえきれずに尿が漏れてしまう状態です。このような症状に対する治療に、TOT手術があります。



■ TOT手術  
尿道と陰の間に幅1cmのポリプロピレン製(図中の緑色)のテープを通して尿道を支える

**TOT手術**  
TOT手術は、尿道の下の膈壁と側面股関節の内側を小さく切開し、その間にメッシュテープを挿入することにより尿道を支える治療法で、からだへの負担は比較的小さく、痛みも軽いため、通常は手術翌日に歩行や食事が可能です。当院では、泌尿器科、婦人科医師が連携を取りながら診察し、合同で手術をすることができ、まずはお気軽にご相談ください。



副院長 婦人科 医長  
おがわ はるき  
小川 晴幾

### 担当医・診療時間

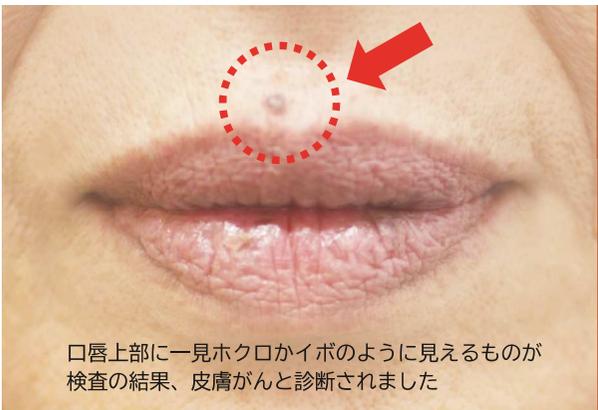
泌尿器科	
	火 金
午前	三浦 徳宣 福本 哲也 小川 花南江

婦人科	
	月～土
9:00	小川 晴幾
11:00	※土曜は、第1・3のみ
	月・金
15:00	小川 晴幾
17:00	

特集 形成外科 傷跡などをきれいに治す

# 腫瘍と傷の審美的再建

えっ!?これが  
皮膚がん?



口唇上部に一見ホクロかイボのように見えるものが  
検査の結果、皮膚がんと診断されました



形成外科 医長  
創傷ケアセンター長  
美容外科 医師  
よねだ たけし  
米田 武史

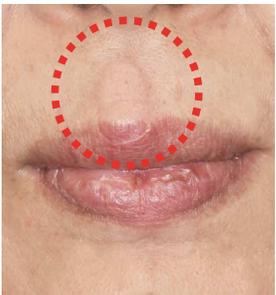
一見なにげないホクロや  
シミ・イボに思えても、  
万が一のことがあります

皮膚がんは、様々な種類がありますが、一見して「デキモノ」や「ホクロ」、「シミ」のように見えます。軟膏を塗ったり、放置したまま時間が経過しても、全く変わらなかつたり、あるいは拡大する場合は、「皮膚がん」を疑って検査をしてみたほうが良いと考えます。

## 傷跡をキレイに治す手術

もし皮膚がんと診断された場合、手術で病変を取り除く必要があります。その際、当院形成外科ではできるかぎ

りキレイに治す手術を心がけています。切除する部分に他の組織などを用いて審美的に再建します。



術後約6ヶ月の写真  
年月とともに周囲になじみます

その他、昔の事故や手術などの傷跡などをキレイにする治療も行っております。皮膚がんの根治には、早期発見が鍵となりますので、少しでも気になる方はお気軽にご相談ください。

● 形成外科

	午前
月	大川 勝正
火	中西 秀樹
水	米田 武史
木	米田 武史
金	大川 勝正
土	米田 武史 (第1・3)

<ご予約(サポートセンター)>  
0896-58-2226

# HITOPICS

## 癒しの音色ときらめく風の コンサート



5月20日(土)に、HITO病院癒しの音色ときらめく風のコンサートを開催しました。

今年のコンサートでは、HITO病院軽音楽部の演奏、四国中央少年少女合唱団・三島小学校合唱隊の合唱、そして最後に、サクソプレーヤーの日比野 則彦様と、奥様でソプラノ歌手の日比野 愛子様による演奏と歌をお届けし、200名を越える方のご来場で大盛況となりました。

## 第2回 HITOフェスタ

7月22日(土)、HITO病院にて「第2回HITOフェスタ」を開催いたしました。

当日は、昨年以上の約130名のご来場をいただき、地域の子どもたちに医療・病院をより身近なものとして知ってもらう場、地域住民の方々と当院スタッフのふれあいの場となりました。子ども達の様々な医療体験に真剣に取り組んでいる姿や、たくさん笑顔を見ることができました。



## 四国中央市糖尿病市民公開講座

6月4日(日)に、土居文化会館ユーホール大会議室にて「四国中央市糖尿病市民公開講座」が行われました。

まずはじめに、当院の糖尿病センターセンター長である扇喜真紀医師が、「もつと糖尿病を知ろう」という題目で講演を行い、当院の理学療法士、管理栄養士による運動と食習慣などの生活習慣に関する講演を行いました。

また、済生会松山病院の宮岡弘明病院長による特別講演があり、「いつまでも元気でいるためにすべきこと」というテーマで、ユーモアたっぷりにお話しされ、会場全体が熱心に耳を傾けていました。当日は、約120名の方にご参加いただき、全員で体操を行い、参加型の活気あふれる会となりました。



## HITOボランティア (ボランティア) 始動



9月1日より、HITOボランティア(ボランティア)の活動が始まりました。オリエンテーションの後、HITOボランティアの制服(緑色のエプロン)をつけていただき、外来などで患者さまのサポートや、車いすの補助をしていただきました。初日の活動を終えたHITOボランティアのみなさまからは、患者さまから『ありがとう』と言われて嬉しかった、という感想をいただきました。当院では、このような活動を共に創り上げてくださるボランティア、HITOボランティアを募集しています。ご興味を持たれた方はぜひ、お気軽にお問合わせください。

## 新任医師紹介



耳鼻咽喉科医長  
たかぎ だいき  
高木 大樹  
日本耳鼻咽喉科学会専門医  
補聴器相談医

一人一人の患者さまに納得した医療が提供できるように丁寧な診療を心がけていきます。



脳神経外科医師  
おかもと しげたか  
岡本 薫学  
脳神経外科学会専門医  
脳卒中学会専門医  
脳血管内治療学会指導医

地域医療に少しでも貢献できるように、尽力していきます。



内科 医師  
みやもと ひろや  
宮本 裕也  
日本内科学会 認定医  
日本消化器病学会

できる限り、患者さまの苦痛の少ない検査を心がけます。

## 認知症介護に関する研修会

9月4日(月)、生活とりハビリ研究所代表 三好春樹先生をお招きし、愛媛県在宅介護研修センター主催、石川ヘルスケアグループ共催の講演会「人間学を根拠とした認知症介護」を開催しました。

三好先生は、医療、介護、リハビリの枠を超えた人間性を重視した老人介護のあり方について日本全国で講義されており、今回の講演でも、良い介護をするためには病気を知ることが重要であること、認知症をケアする上ではその人自身を知ることが重要であること、それらが人間を学ぶことにつながることを話されました。当日は市内外から200名近くの医療・介護従事者が参加し、盛会のうちに終了しました。

